

平成28年度 地域ケアプラザ事業報告書

1 施設名

横浜市藤棚地域ケアプラザ

2 事業計画

今年度、地域ケアプラザの管理運営をどのようにおこなったのか、具体的に記載してください。

地域の現状と課題について

- ① 藤棚商店街の周辺には古くからの住宅密集地があり、急傾斜の坂道と狭い道路が多く、地域によっては緊急車両の通行が困難な場所も混在しています。高齢化率は26.3%と西区では高い方です。30%を超えている町内会もあります。また、6歳未満の子どもが減少している地域もあり、自治会・町内会によっては子ども会がない地域もあります。小学校の新入生が多少増えているなど全体的には横ばい状態です。
- ② 地域の課題としては、自治会・町内会の役員の高齢化が顕著で、後継者探しに苦労している自治会もあります。第三地区社会福祉協議会は、平成26年度から組織の見直しなどを行い、自治会とは別に、第三地区社会福祉協議会としての活動も行われるようになりました。今年度も区社会福祉協議会と連携して活動を進めました。
- ③ エリアには9つの福祉施設があり、連携をしながら業務を進めました。

施設の適正な管理について

ア 施設の維持管理について

- ① 建物、空調設備、消防設備等の保守点検を定期的に行い、また日常清掃や消耗品の補充等における日常の管理を通して、ご利用者が安心・安全にご利用いただけるよう努めてきました。
- ② 感染予防のために毎日トイレ、手摺、ドアノブ等の殺菌消毒を行いました。

イ 効率的な運営への取組について

- ① 労務、経理等の事務処理に関して法人本部と連携して、業務や役割の分担を図りながら事務の効率化に努めました。また送迎車両リース等の委託業者の選定にあたっては、電子入札を実施し経費削減を図りました。
- ② 建物管理や保守に関しては、藤棚地区センターと複合施設のため共同委託することで、効率よく施設管理を行いました。

ウ 苦情受付体制について

- ① 法人で苦情解決規則を定めており、それに基づき地域ケアプラザにおいても苦情受付担当者、苦情解決責任者を設置して、お客様からのご意見・ご要望、苦情等に対応しました。また法人では公正・中立の立場から斡旋し、調整を行う第三者委員制度を設けており、適切な苦情解決に向けての体制を整備し解決に取り組みました。
- ② 受付カウンターに「なんでもご意見箱」を設置し、気軽にご意見がいただけるよう工夫しました。

エ 緊急時（防犯・防災・その他）の体制及び対応について

- ①緊急時に落ち着いた行動が取れるよう、年に2回、デイサービスのお客様や貸室ご利用者を含めた避難・消火訓練を行いました。藤棚地区センターと共催で防災フェスタを行い、地域の方々と共に防災意識を高めました。
- ②地域に要援護者の特別避難施設であることのPRをするとともに、日頃から災害応急備蓄物資や防災対策マニュアルを整備し、職員の意識を高めて、災害緊急時に備えました。
- ③第3地区の防災無線を地域ケアプラザ内に配置し、無線の操作等の確認を行いました。今年度は「西区防災拠点総合訓練」に参加し、特別避難場所としての開設準備や、車いすを用いて、一時避難場所から特別避難場所への避難訓練を行いました。
- ④地震等の大規模災害発生時に、サービスを必要とするお客様に可能な限り対応できるように、事業継続計画（BCP）を整備しています。訓練を実施するとともに適宜見直しを行い、適正な対応に備えました。

オ 事故防止への取組について

- ①介護サービス提供中のヒヤリハットしたことなどを、朝のミーティングで報告し、職場内で注意喚起しながら事故の防止に努めました。また所内の会議で、他事業所の事故事例や事業所内の事故防止マニュアルを活用するなど、事故防止に関する研修を組み入れ、職場における危機管理の意識を高めました。月に一度の安全衛生委員会においては、産業医に事故報告等を行い、事故防止への取組についても話し合いました。

カ 個人情報保護の体制及び取組について

- ①法人では個人情報保護規程を定め、地域ケアプラザでは個人情報の取扱いに関する担当者・責任者を定め、個人情報保護・情報セキュリティ研修を年1回行い、啓発に努めました。
- ②実際の個人情報の取扱いとして、契約書・記録類は施錠できるキャビネットなどに保管しました。個人情報のデータは所内サーバーを利用することで、USBの紛失の恐れを防止しました。
- ③個人情報は外部へ持ち出し厳禁にしていますが、どうしても携帯が必要な場合には、紛失や情報漏えいのないよう、法人オリジナルの個人情報保護用バッグに、必要最小限の情報のみを携帯するようにしました。また、ファックスや郵送の誤送信が起らないよう、取扱い手順を決めて日常業務を行いました。
- ④デイサービスのお客様の記録書等の取扱いについては、誤返却防止のために、看護師、生活相談員、介護スタッフで3段階チェックを行いました。
- ⑤研修では『お客様の個人情報を大切に扱うことは「人を大切にする」ことと同義であり、サービスの基本である』ということを職員・パート職員全員で共有し、チェックシートの活用により業務の振り返りを行いました。

キ 情報公開への取組について

- ①情報公開の請求があった場合には、法人で定めた情報公開規程に則り、積極的に情報を公開しますが、今年度はありません。
- ②ホームページを活用して、各種事業に関する情報などを幅広く市民の方に提供しました。

ク 人権啓発への取組について

- ①法人が開催する人権研修等に参加し、職員・パート職員には各種会議等の中で伝達研修を行い、一人ひとりが人権に関して考える機会を設け、人権啓発に努めました。

ケ 環境等への配慮及び取組について

- ①節電・節水、コピー用紙の裏面活用、ごみの減量化を励行し、経費削減に取り組みました。「横浜市ごみゼロルート回収」のルールに従い、資源ごみの分別収集を行いました。ご利用者には、ごみの持ち帰りや館内での禁煙についてのご理解・ご協力をいただきました。また、使用していない部屋の照明をこまめに消し、暖房・冷房の季節には適切な室温を維持するなど、節電への取組を行いました。
- ②2ヶ月に1回、空気環境測定を行い、室内環境の適正な維持に努めました。外構の環境整備については、地域作業所の活動の場として清掃作業を委託しました。

介護保険事業

● 介護予防支援事業

《職員体制》

- ①地域包括支援センター（看護師・主任ケアマネジャー・社会福祉士）3名
- ②プランナー1名（非常勤）

《目標》

- ①介護予防支援計画の作成にあたっては、お客様の意思および人格を尊重し、自立に向けて設定された目標を達成するために、お客様およびそのご家族の主体的な参加とともに、適切な保健・医療・福祉サービスや、ボランティア団体等との連携を図り、総合的なサービス提供の調整に努めました。可能な限り住み慣れた地域で自立した日常生活を営むことができることを目標としました。
- ②事業の運営にあたっては、公正・中立な立場でサービス調整をしました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

原則、お客様の負担金はありません。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①お客様の心身能力、生活能力、意欲などを総合的にアセスメントし、意欲を引き出せるよう工夫しました。その際、人から必要とされ生きがいの持てる生活が送れることを目的として、お客様と一緒にケアプランを作成しました。
- ②居宅介護支援事業所に委託する場合も、自立支援につながるようケアマネジャーへの支援を行いました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
128	128	131	127	127	122
10月	11月	12月	1月	2月	3月
123	119	118	114	117	119

● 居宅介護支援事業

《職員体制》

介護支援専門員	常勤専任	2名
	常勤兼務	1名
	非常勤兼務	1名

《目標》

- ①適正な保健・医療サービスおよび福祉サービスが、多様な事業者から総合的かつ効率的に提供されるように、公正・中立な立場に立ち、居宅サービス計画を作成するとともに、サービス事業所等の連絡調整を行いました。
- ②事業の実施にあたっては、関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス事業者、ボランティア団体等との綿密な連携を図り、総合的なサービス提供の調整に努めました。
- ③居宅サービス計画の作成にあたっては、お客様の心身の状況、その置かれている環境等に応じて、お客様が自立した日常生活を営むことができることを目標としました。

《実費負担（徴収する場合は項目ごとに記載）》

- ①お客様からいただく負担金は、償還払いの場合を除き無料です。
- ②通常のサービス提供地域を超える地域に、訪問・出張する必要がある場合には、公共交通機関を用いて要した額を明細書等に基づいて徴収しました。費用については、お客様とご家族に対して事前に文書で説明した上で、支払いに同意する旨文書に署名（記名押印）を受けました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

地域ケアプラザは福祉・保健の活動拠点として、自治会・町内会、地区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、ボランティア団体など、地域の様々な団体が日頃から利用していただけるように努めました。また、地域の身近な相談窓口として、誰もが気軽に立ち寄れて相談できるよう努めました。

《利用者実績》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
119	117	118	117	116	112
10月	11月	12月	1月	2月	3月
111	109	109	115	111	111

● 通所介護事業

《提供するサービス内容》

- お客様が自立した日常生活を営むことおよび、お客様のご家族の負担を軽減させていただくことを目標に、お客様の心身の特性を踏まえ、お体の状況に応じて、入浴・排泄・食事等の介護等を行うとともに、体操、レクリエーションを実施し、希望者には個別機能訓練、口腔機能訓練等を行いました。
- 事業の実施にあたり、関係行政機関、地域の保健・医療・福祉サービス、ボランティア団体等と連携を図り、総合的なサービス提供の調整に努めました。

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（要介護1）	704	円
（要介護2）	831	円
（要介護3）	963	円
（要介護4）	1095	円
（要介護5）	1227	円
・ サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	7	円
・ 個別機能訓練	60	円
・ 口腔機能訓練向上加算	161	円
・ 入浴介助	54	円
・ 同一建物減算	-101	円
・ 送迎減算（片道）	-51	円

● 2割負担分

（要介護1）	1407	円
（要介護2）	1662	円
（要介護3）	1926	円
（要介護4）	2189	円
（要介護5）	2453	円
・ サービス提供体制強化加算（Ⅱ）	13	円
・ 個別機能訓練	120	円
・ 口腔機能訓練向上加算	322	円
・ 入浴介助	108	円
・ 同一建物減算	-202	円
・ 送迎減算（片道）	-101	円

● 介護職員処遇改善加算（Ⅰ）

- ・ 1ヶ月のご利用単位合計数の1000分の40相当の単位数の料金を加算。

● 食費負担 650 円

- ・ 通常のサービス提供の範囲を超える費用・選択サービスメニューは全額負担。
- ・ 前日の営業時間終了までにご連絡がない場合、キャンセル料（食材料費450円）をいただきました。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 8:45 ~ 17:00（うち7時間）

《職員体制》

管理者	・・・常勤兼務	1名
生活相談員	・・・常勤兼務	4名
看護職員	・・・非常勤兼務	7名

介護職員	・ ・ ・ 常勤専任	3名
	常勤兼務	4名
	非常勤専任	13名
機能訓練指導員	・ ・ ・ 非常勤兼務	7名
調理員	・ ・ ・ 非常勤専任	7名
運転手	・ ・ ・ 非常勤専任	6名
事務員	・ ・ ・ 常勤兼務	1名
	非常勤専従	1名

《実施内容》

- ①お客様が自立した日常生活を営むことを目標に、お客様の心身の特性を踏まえ、その有する能力に応じて通所介護サービスを提供しました。
- ②通所介護計画書の作成にあたっては、個別ニーズを把握し、お客様の意思を尊重し、心身状況、環境等に応じて、お客様が自立した日常生活を営むことができることを目標としました。
- ③お客様に心地よく過ごしていただくため、職員の資質向上を図る研修を定期的に行いました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①ご本人やご家族が見学を希望される場合には随時対応し、実際に見ていただいて不安を解消した上でご利用につながるようにお声掛けをしました。
- ②厨房で調理した温かくおいしい家庭料理を毎回提供し、季節感のある行事食メニューを楽しんでいただきました。
- ③おやつは季節感のある嗜好品を凝らして楽しんでいただくことを目標とし、お客様と一緒に作ることもしました。
- ④8：45～17：00のうち7時間のご利用をしていただきました。到着した方から順次サービスを開始させていただき、充実したサービス提供を行いました。

《利用者実績（延べ人数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
782	783	742	773	758	745
10月	11月	12月	1月	2月	3月
751	743	701	692	690	798

● 介護予防通所介護・第1号通所事業

《提供するサービス内容》

- 「介護予防通所介護（第一号通所サービス（横浜市通所介護相当サービス）計画）」等に沿って、送迎・入浴および食事の提供、生活等に関する相談・助言、健康状態の確認やその他お客様に必要な日常生活上の支援並びに機能訓練（日常動作訓練）を行いました。
- サービス提供にあたっては、「介護予防通所介護（第一号通所サービス（横浜市通所介護相当サービス）計画）」等に沿って、お客様ができることはご自身で行いながら、社会的交流を持つことで、潤いを持った生活を楽しんでいただけるよう努めました。
- 事業の実施にあたり、行政機関・地域の保健・医療・福祉サービス事業者、ボランティア団体等との連携を図り、総合的なサービス提供の調整に努めました。

《実費負担（徴収する項目ごとに記載）》

● 1割負担分

（事業対象者 要支援1、要支援2 週1回程度）	1 7 6 6	円
サービス提供体制強化加算	2 6	円
（事業対象者 要支援2 週2回程度）	3 6 2 1	円
サービス提供体制強化加算	5 2	円

・運動器機能向上加算	2 4 2	円
・口腔機能向上加算	1 6 1	円
・同一建物減算 （事業対象者 要支援1、要支援2 週1回程度）	- 4 0 3	円
・同一建物減算 （事業対象者 要支援2 週2回程度）	- 8 0 7	円

● 2割負担分

（事業対象者 要支援1、要支援2 週1回程度）	3 5 3 1	円
サービス提供体制強化加算	5 2	円
（事業対象者 要支援2 週2回程度）	7 2 4 1	円
サービス提供体制強化加算	1 0 3	円

・運動器機能向上加算	4 8 3	円
・口腔機能向上加算	3 2 2	円
・同一建物減算 （事業対象者 要支援1、要支援2 週1回程度）	- 8 0 6	円
・同一建物減算 （事業対象者 要支援2 週2回程度）	- 1 6 1 3	円

● 介護職員処遇改善加算（I）

- ・1ヶ月のご利用単位合計数の1000分の40相当の単位数の料金を加算。

● 食費負担 650円

- ・通常のサービス提供の範囲を超える費用・選択サービスメニューは全額負担。
- ・前日の営業時間終了までにご連絡がない場合、キャンセル料（食材料費450円）をいただきました。
- ・月の途中からご利用の場合は、サービス契約日からの日割り計算としました。

《事業実施日数》 週 7 日

《提供時間》 8:45 ~ 17:00 (うち7時間)

《職員体制》

管理者	・・・常勤兼務	1名
生活相談員	・・・常勤兼務	4名
看護職員	・・・非常勤兼務	7名
介護職員	・・・常勤専任	3名
	常勤兼務	4名
	非常勤専任	13名
機能訓練指導員	・・・非常勤兼務	7名
調理員	・・・非常勤専任	7名
運転手	・・・非常勤専任	6名
事務員	・・・常勤兼務	1名
	非常勤専任	1名

《実施内容》

可能な限り居宅において、要支援状態の維持、もしくは改善を図り、自立した日常生活を営むことができるよう、お客様の意欲を喚起しながら支援しました。そのために、居宅サービス計画に基づいて「介護予防通所介護（第一号通所サービス（横浜市通所介護相当サービス））計画」等を作成し、サービスの提供を計画的に行いました。

《その他（特徴的な取組、PR等）》

- ①運動機能向上訓練をお客様個々のレベルに合わせて目標設定し、筋力の維持向上に努めました。
- ②通所介護事業と一体的に実施する中で、お客様相互の助け合いや学び合い、役割を持つ活動の中から意欲や楽しみを見つけていただけるように、お客様同士の交流に力を入れて事業を実施しました。

《利用者実績（契約者数）》

※ 単位は省略してください。

【単位：人】

4月	5月	6月	7月	8月	9月
118	123	119	102	112	110
10月	11月	12月	1月	2月	3月
118	98	93	92	96	113

以下、地域ケアプラザ事業実施評価との共通部分（区と協議の上、策定して下さい。）

地域ケアプラザ

1 総合相談（高齢者・こども・障害分野への対応）

- ①誰もが住み慣れた地域で安心して生活できるよう、様々な相談にそれぞれの職種が連携して、対応しました。
- ②高齢者に関する相談は、地域包括支援センターの3職種（看護師・主任ケアマネジャー・社会福祉士）が中心となり関係機関と連携し、積極的に地域ケアプラザの機能理解と顔の見える関係づくりを図りました。担当地区の民生委員児童委員協議会、シニアクラブ、ボランティアグループの会食等に出向き相談や出前講座・情報提供を行ってきました。
- ③子育て支援は、あそびの杜保育園と共催で季節感を取り入れた0～3歳児向けの事業「ピーナツクラブ」を13回開催し、毎回保育士による相談タイムを設けるとともに、地域包括支援センターの看護師による感染症予防講座も取り入れ、子育て中の不安への対応を行いました。
- ④障がい児者支援事業として「オープンカフェとんぼ」を毎月第2・4火曜日に実施し、気軽に相談できる体制づくりをしました。また、夏休みと冬休みには、自立支援協議会との共催で、オープンカフェとんぼのご利用者も参加できる、障がい児者余暇活動支援事業に取り組みました。
- ⑤主に障がい者施設のご利用者に関して、外出先として開催している「絵の会」は地域の高齢者ボランティアが活躍できる場所ともなっており、今年度から地域の高齢者の参加もあり、障がい理解の一步となりました。
- ⑥障がい者施設と定期的に顔の見える関係づくりを行う機会を持ち、個別ケースの相談についても障がい者施設や区役所等と連携を取りながら対応しました。

2 地域活動交流部門・地域包括支援センターの連携(生活支援体制整備事業も含む)

- ①地域包括支援センター3職種、地域活動交流コーディネーター、生活支援コーディネーター（以下を「5職種」という）、所長で行う5職種会議を毎月開催し、情報の共有を行いました。また、地域の要望に合わせて出前講座や食事会、認知症サポーター養成講座、民生委員児童委員協議会の学習会、個別・ケアプラザレベル地域ケア会議についても全員で企画・運営・実施しました。
- ②地域ケアプラザの事業に参加している利用者一覧を作成し、相談ケースとの付け合わせをすることで、情報共有ができ、フォーマル・インフォーマルサービスに結びつける一助となりました。
- ③地域活動交流部門と地域包括支援センターで連携し、地域包括支援センターの介護予防のボランティアグループに対して、「よこはまシニアボランティアポイント登録研修会」を3月に行いました。その際、ボランティアグループのみならず、地域住民にも広く周知し参加を促し、ボランティア活動の啓発を行いました。
- ③地域活動交流部門と地域包括支援センターで行っている事業の一覧表を一枚にまとめて作成し、双方で対象となる方に情報提供しました。

3 職員体制・育成

- ①介護保険事業については人員配置基準を遵守して業務を行いました。
- ②法人内で年間研修計画を作成し、職員は可能な限り研修に参加しました。研修内容としては、新採用時研修、3ヶ月フォローアップ研修、中堅研修、管理職研修など階層別研修や職種別研修でした。
- ③法人内で職種ごとの専門職会議を定期的を開催し、各ケアプラザで実施している事業の紹介や課題などの情報交換を行い、担当者の専門性や資質の向上を図れるよう切磋琢磨しました。
- ④外部の研修にも積極的に参加し、研修受講後には研修報告書を作成し、所内での伝達・回覧を行って、情報共有を行いました。
- ⑤法人・地域ケアプラザの各種会議において、地域包括支援センターおよびケアマネジャーの公正・中立について確認を行いました。
- ⑥法人の人材育成ビジョンに基づいた人材育成を行いました。

4 地域福祉のネットワーク構築

- ①第3・第4地区の地域の福祉保健活動団体と連携するために、連合町内会、民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、ふれあい会交流会、自立支援協議会の定期的な会合や行事に参加し、日常的に情報交換を行いました。
- ②「第4回第3地区ふれあい春まつり」、「西区地域防災拠点総合訓練」、「第3地区福祉フェスタ」など、事務局として地域のネットワークづくりを行いました。また、第3地区懇談会の部会（第1～3部会）に事務局として入り、各会議への参加や活動を支援しました。
- ③地域ケアプラザを利用する子育てサークルや地域で子育て支援を行っている団体、主任児童委員、子育て活動拠点、区役所、連合町内会が参加して「子育てネットワーク会議」を2月に開催し、子育ての分野での顔の見える関係づくりを推進してきました。
- ④障がい児者支援事業「とんぼ」の行事として開催していた「焼き芋大会」を、障がい児者と地域の交流の場として拡大し、藤棚地区センター、単位町内会、子ども会、地域の福祉施設に呼びかけ、約90名を超える方が参加するイベントとなりました。
- ⑤第三地区社会福祉協議会の支援を区社会福祉協議会とともに積極的に行いました。事務局会議の参加をはじめ、各種行事の後方支援を行いました。10月には一人暮らし高齢者を対象に食事会を3回開催し、音楽を中心としたアトラクションを催して参加者には楽しんでいただきました。また、11月には福祉講座研修会として「心をつなぐ地域の輪」を開催しました。
- ⑥第4地区では、今年度10回の「みんなの食堂」（子ども食堂）を開催し、宮崎地域ケアプラザや区役所、区社会福祉協議会と連携しながら参加しました。また、12月には「第10回ふれあいクリスマスコンサート」、3月には「第15回みんなのまつり」など、地域のイベントに参加しました。

5 区行政との協働

- ①西区地域福祉保健計画「にこやかしあわせくらしのまちプラン」（にこまちプラン）の6つの基本目標に沿って、地区支援チームの一員として、区役所や区社会福祉協議会とともに取り組みました。
<安全が確保され安心なまち>
- ①地域全体でサポートを必要とする人を見守るために、ミニデイサービスや自主事業の参加者、その他地域ケアプラザの機能を活用して、地域の中で支援のネットワークを構築するよう、地域ケア会議などを通して働きかけを行いました。
- ②10月23日には稲荷台小学校で「西区地域防災拠点総合訓練」が行われ、特別避難場所の開設訓練などを行いました。
<活気にあふれ健康なまち>
- ①健康づくりの体操教室や介護予防教室を開催しました。ミニデイサービス「赤い靴」や地域への出前講座など介護予防に関して、地域に対する啓発活動を行いました。

- ②認知症の方を地域で見守り支えていくための啓発事業として、「認知症サポーター養成講座」を第三地区社会福祉協議会の地域向け研修会として、またシニアクラブで2回、西区のキャラバンメイトにも協力をいただき開催しました。
- ③顔の見える関係づくりと健康づくりのために、7月に元気づくりステーション化した、浜松町公園での「みんなで体操」を引き続き行うと同時に、地域で自主的に開催していけるように、町内会長に提案し、参加者にも受付を手伝ってもらうなど、自主化に向けた取組をスタートしました。
- ＜一人ひとりの個性を認め合いみんなが共存するまち＞
- ①障がい児の放課後支援事業を発展させ、障がい児者支援事業「オープンカフェとんぼ」として月2回開催しました。
- ②小中学生に福祉の理解を深めていただくことを目的に、9月に老松中学校、2月に岩井原中学校から職業体験実習生を受け入れました。
- ③第3地区内福祉施設9館で「第3地区福祉フェスタ」を開催しました。
- ＜地域全体がつながりを持つまち＞
- ①「第4回第3地区ふれあい春まつり」を5月15日に開催しました。地域の様々な団体からの参加をいただき、藤棚地区センターとの共催で藤棚まつりを6月5日に開催しました。その他「西区民まつり」にも参加しました。
- ②「第3地区福祉フェスタ」で第3地区懇談会がスタンプラリーを行い、福祉施設と地域との結びつきを強めました。
- ＜子どもが健やかに成長できるまち＞
- ①子育て支援事業として「ピーナツクラブ」を「ろぜっと保育園」との共催で毎月行いました。夏のプールではパパも一緒に参加できるように、土・日に開催するなど工夫しました。
- ②子育て支援者やグループが交流できるネットワークづくりとして、エリア内の子育てグループや支援者に呼びかけをして、第3回子育て支援ネットワーク会議を2月に開催しました。
- ③生活支援課からの依頼で、中学生の勉強会（にしまる真学塾）が開催できるよう支援しました。
- ＜必要な情報が正確に伝わるまち＞
- ①情報アドバイザー「e ネットにし探検隊」によるパソコン指導とインターネットの使い方指導を毎週水曜日に行いました。また、ウォーキングポイントの情報がインターネットでしか取れないため、自宅にパソコンがない方のために、e ネットの回線を利用して情報を提供しました。
- ②地域ケアプラザの広報紙地域版を年4回から6回に増やし、包括エリアの町内会に回覧板を配布しました。またホームページを活用して福祉保健の情報を毎月発信してきました。
- ③横浜市が進めている健康スタンプラリーに自主事業のエントリーをしました。
- ④区4地域ケアプラザの地域活動交流部門が共催で「にこまちプラン」を推進するための事業への取組を開始しました。

地域活動交流部門

1 福祉保健活動等に関する情報収集及び情報提供

- ①自治会・町内会や民生委員児童委員協議会、シニアクラブ、ボランティアグループの会食会等に参加し、情報収集および情報提供を行いました。
- ②ホームページを随時更新し、広報紙地域版を年6回発行しました。
- ③ボランティアの交流会、貸室団体の交流会を各年1回実施しました。
- ④情報提供用のラックを支援別・施設別に分けるなど、来館者に分かりやすく提供できるよう整備しました。

2 福祉保健活動団体等が活動する場の提供

- ①利用団体に気持ちよく利用して、地域で活発に活動していただけるように、更新した貸室の手引きを活用し説明すると同時に、他施設の情報も提供しました。また施設を利用するにあたり、年に1回のアンケートを実施しました。受付カウンターには「なんでもご意見箱」を設置し、ご意見・ご要望等には出来るだけ迅速な対応に努めました。
- ②団体間の連携が図れるよう「貸室懇談会」を開催し、団体間のネットワーク構築を支援し、それぞれの団体の活動も活発になるよう努めました。

3 自主企画事業

- ①地域に住む方々の希望やニーズを把握し、年間計画に沿って、それぞれの世代や対象者別に参加できる場を提供しました。
- ②高齢者向けの健康づくりとして「さわやか体操クラブ」、居場所づくりとしての「みんなで唄おう」、「一の会」、「藤棚コンサート」を例年通り開催しました。
- ③子育て支援事業では、「ピーナッツクラブ」、障がい児者支援事業として「オープンカフェとんぼ」、「絵の会」を継続しました。「とんぼ」の事業として開催してきた「焼き芋大会」や「流しそうめん」は、地域の方も参加していただけるように町内会や地区センターとも連携し実施しました。
- ④隔月発行に増えた広報紙を活用し、自主事業への参加を増やしました。
- ⑤高齢者向け自主事業は、出来るだけ自立を促した結果、自主化したものもありますが、参加者が高齢化してくるため、引き続き後方支援をしました。
- ⑥藤棚地区センターと合同で「藤棚まつり」を6月5日に開催しました。
- ⑦サブコーディネーターが企画する自主事業「クリスマスキャンドルを作ろう」を開催しました。

4 ボランティアの育成及びコーディネート

- ①現在ボランティア活動をされている方が継続して活動を続けられるよう、ボランティア活動の手引きを更新し、相談や調整を行いました。また、今年度も65歳以上の方に「よこはまシニアボランティアポイント」の登録を呼びかけました。
- ②ニーズに沿ったサービスが、提供できるようなボランティアグループの立ち上げや既存のグループの継続を支援していきました。横浜市中心図書館との共催事業で始まった「大人向け読み語り」ボランティアがグループとしての活動を始めました。
- ③登録団体として利用している趣味や体操のグループが、ボランティア活動にも取り組めるように働きかけました。
- ④「ボランティア感謝会」を開催し、日頃の活動を労うとともに情報交換の場として、活動の広がりが得られるようにしました。
- ⑤ボランティア体験を通して中学生に福祉の心が育つよう活動の場の提供を支援しました。

地域包括支援センター

1 総合相談・支援

総合相談
<p>①相談件数については、1,289件（相談：1,173件、訪問：116件）【前年比：93%】、そのうち新規相談者は161件【前年比：89%】、継続相談者は1,012件【前年比：84%】でした。昨年度と比較し、相談件数は減少したものの、行政サービスについてや、インフォーマルサービス、認知症について（BPSD）・認知症（医療）・介護（※認知症以外）、医療（※認知症以外）、消費者保護等についての相談は増加していました。相談者が多問題を抱えている可能性があるため、他職種との連携や、適切な情報提供等を行い対応しました。</p> <p>②地域の高齢者等に関する相談内容について、分析をするためのチェック表を作成しました（例：末期癌の相談が多いという感覚があるが、実際にどの程度なのか…など）。それを基に分析し、事業展開に活かせるよう検討しました。</p> <p>③5職種で協働し、ケアプラザレベルの地域ケア会議を通して、地域の課題把握、フォーマル・インフォーマルサービスなどを利用し、課題解決に向け取り組みました。</p>

地域包括支援ネットワークの構築
<p>①法人オリジナルの地域アセスメントシートを作成し、定期的に見直すことで、地域の課題分析を継続して行いました。</p> <p>②ネットワーク構築のためには、地域の間人関係などが課題になることがありますが、地域と関係機関に対して“橋渡しの役割”として、人間関係がより円滑に進めていられるよう柔軟に対応しました。</p> <p>③自立支援協議会の各種会議・部会（代表者会議・担当者会議・防災会議・余暇支援部会・個別支援会議等）や高齢者権利擁護サポートネット全体会・分科会、課題別分科会に毎回参加し、各関係機関の役割や事業内容の理解をより深められたとともに、地域ケアプラザの役割も理解されました。</p> <p>④シニアクラブや地域の会合に30回出向き、介護予防や虐待防止の啓発など情報提供を行いました。</p> <p>⑤民生委員児童委員協議会の定例会において、隔月で勉強会をさせていただきました。</p>

実態把握
<p>①エリア内の活動団体に対し、「インフォーマルサービス実施団体に関する調査書」を作成し、関係団体の把握をしました。その団体が高齢者などの受け皿となるか、衰退していないかなどアセスメントを行い、必要に応じて活性化を図るよう働きかけました。また、把握した団体代表者と連携を図り、ケアプラザ事業に参加している方に情報提供を行い、相互に参加できるよう手配をしました。</p> <p>②法人オリジナルの地域アセスメントシートを作成し、定期的に見直すことで、地域の課題分析を継続して行いました。</p>

2 権利擁護

権利擁護

- ① 民生委員児童委員協議会の勉強会や各町内会の会合、西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」（区内の介護者支援団体）やミニデイサービス「赤い靴」でのワンポイント出前講座、認知症サポーター養成講座等で、横浜市の「防犯意識啓発広報」資料などを用いて、振り込め詐欺防止のための普及啓発活動を新しい情報が入るごとに行いました。詐欺の事例として寸劇を取り入れて、誰にでも分かりやすく周知するよう努めました。また、「シニア世代のマナー講座」を郵便局・ゆうちょ銀行と共催で開催し、地域住民を対象として詐欺防止の普及啓発をしました（参加者：23名）。
- ② 成年後見制度についての講座を地域住民向けに区内4地域包括支援センター共催で開催し、成年後見制度の普及啓発に努めました。また、独自に「遺言の書き方講座」を開催し、地域住民等への啓発活動を継続しました（参加者：19名）。
- ③ 高齢者権利擁護サポートネットで培った「顔の見える関係」を活かし、相談時必要な時に、司法書士・行政書士等へつなぐよう努めました。また、現在成年後見制度の必要な方へのアプローチを進めています。
- ④ 個別ケースにて、悪徳リフォーム業者の出入りの連絡を受け、消費生活総合センターや警察と連携をとり被害防止に努めました。また、「有名デパート職員を名乗り、個人のクレジットカードを回収しようとしている人がいる」と地域住民より相談を受け、警察と連携し支援を行った結果、犯人逮捕につながりました（今年度西区内で起こった振り込め詐欺に関して、逮捕につながったのはこの1件のみ）。

高齢者虐待

- ① 高齢者の虐待については、区役所と綿密な情報共有を図りながら、相談者自らが主体的に問題解決にあたるように、専門職や警察等とも連携し、専門的・継続的な視点から支援していくよう努めました。
- ② 各町内会の会合や、民生委員児童委員協議会の勉強会、西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」やミニデイサービス「赤い靴」、認知症サポーター養成講座等で、ワンポイント講座を開催し、虐待防止に関する普及啓発活動を行いました。
- ③ 区内4地域包括支援センター共催で、地域住民向けに虐待防止の研修を行い、虐待防止の普及啓発を行いました。
- ④ 区内4地域包括支援センター共催で、デイサービス職員、ホームヘルパー・サービス提供責任者向けに高齢者虐待防止について講座を開催し、普及啓発に努めました。
- ⑤ 西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」との交流会を年2回、「在宅男性介護者のつどい」を年4回開催し、虐待のおそれのある介護者等をつなげ、虐待防止に取り組みました。

認知症

- ① 地域包括支援センターが窓口となり、包括エリア内の認知症キャラバンメイトと協力し、「保健活動推進員」、「久保町第二自治会」、「（株）NHC横浜支店」など地域に関わる方々に認知症サポーター養成講座を行い、認知症の正しい理解の促進に努めました。
- ② 包括エリア内の認知症キャラバンメイトを対象に、「認知症キャラバンメイト藤棚チーム」を立ち上げ、交流会を7月と9月に実施しました。第1回交流会では、活動可能な認知症キャラバンメイト8人全員が参加し、自己紹介、計画書・報告書作成などの事務処理について確認し合いました。これにより、認知症キャラバンメイト同士の結束力が高まり、キャラバンメイト自身が必要な場所で認知症サポーター養成講座を開催することができました。2回目以降は 講座の反省や今後の計画な

どについて意見交換し、また開催の方法などについての勉強会を行い、来年度も継続して、4月と9月に開催する予定です。

- ③ 元久保町内会館で、認知症サポーター養成講座を認知症キャラバンメイト主導で行う準備を進めました。
- ④ 認知症キャラバンメイトの活動を推進し、積極的に普及啓発を行いました。
- ⑤ 認知症で介護負担の大きいご家族には、西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」や「在宅男性介護者のつどい」等をご案内し、連携を取りながら支援していきました。
- ⑥ 西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」の月1回の食事会では、毎回ワンポイント講座を行いました。それによって「あけぼの会」会員からの相談につながりました。
- ⑦ 認知症サポート医を中心に、「認知症の方と支える家族のための多職種ミーティング」を9月に開催しました。

3 介護予防マネジメント

介護予防ケアマネジメント力

- ① 二次予防事業対象者把握は年次事業として年間を通じて取り組み、5職種で連携を図り、地域包括支援センター自主事業に限らず、地域交流事業部門や出前講座でも積極的に行いました。虚弱高齢者に対し、介護予防事業や生きがいづくりのためのボランティア活動につなげました。
- ② 相談者に対しても、介護保険サービスの必要性をアセスメントしました。また、自立支援を目的にチェックリスト対象者であるかのアセスメントを行い、できる限り事業などにつなげました。
- ③ 介護予防事業につながらなかった方にも、継続的に働きかけました。

4 包括的・継続的ケアマネジメント支援

地域住民、関係機関等との連携推進支援

- ① 5職種と協働しながら、地域アセスメントシートを作成し、定期的に見直しを行いました。地域の実態を把握し、地域包括ケアシステムの実現を目指しました。
- ② 地域の「シニアクラブ」、「町内老人会」、「あけぼの会」、「婦人の会」等に出向き、地域住民に対し、福祉・保健・医療分野について、専門職が出前講座を行いました（全30回）。
- ③ 5職種が民生委員児童委員協議会に出向き、「生活支援体制整備事業」、「介護保険サービスについて」、「熱中症予防」等の勉強会を行いました。
- ④ ケアマネジャーのケアマネジメントを支援するため、地域住民や関係機関等に対し、介護保険制度やサービス、ケアマネジャーの役割などを地域ケア会議やカンファレンス等の場で周知しました。
- ⑤ ケアマネジャーと民生委員児童委員協議会の交流会を開催し、ネットワーク作りに努めました。
- ⑥ 区社会福祉協議会主催の「高齢者福祉分科会」に参加し、地域で関わりの深い関係機関等との情報交換や、福祉に関する情報提供などを行いました。

医療・介護の連携推進支援

- ① 西区医療連携拠点モデル事業実地に向けて開催された会議・研修に参加し更なる連携の強化に努めました。
- ② 日常的に医療機関から退院支援についての相談を受け、地域包括支援センター3職種は、病院や自宅に訪問し、対象者の身体状況や介護者、住環境等を把握し、ケアマネジャーやサービス事業者につなげるよう調整を行いました。
- ③ 認知症初期集中支援チームの会議に参加し、情報を共有しました。

ケアマネジャー支援

- ①ケアマネジャー同士の連携支援およびスキルアップを目標に、区内4地域包括支援センター共催で、「ケアマネサロン」を開催しました（全9回、参加者：延255名）。
- ②エリア内でケアマネジメントを行っているケアマネジャーを対象に「ケアマネぶらっと」を開催し、ニーズに合わせた勉強会や情報交換会、居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーへの支援を行いました。3月には民生委員児童委員協議会との交流会を兼ねて、「生活支援体制整備事業」について勉強会を行い、グループワークでは意見交換を行いました（参加者：23名）。
- ③今年度から新しく始まった「介護予防・日常生活支援総合事業」の研修を区内4地域包括支援センターと区役所との共催で、9月と1月に開催しました。
- ④ケアマネジャーからの依頼により、サービス担当者会議に出席し、支援困難事例、緊急時の対応など、より良い支援体制を作りました（全38回）。
- ⑤ケアマネジャーからの相談を受け、助言等の対応をしました。困難な事例はカンファレンスを行い、問題解決に向けて支援しました（相談件数：323件）。
- ⑥新人ケアマネジャー支援として、新人ケアマネジャー研修を開催しました。

多職種協働による地域包括支援ネットワーク

- ①医療、区役所、区社会福祉協議会、民生委員児童委員協議会、シニアクラブ、サービス事業所等の多職種の方々を招き、「地域の見守りの大切さとそれぞれの役割」をテーマに、個別レベル地域ケア会議を開催しました（全2回）。
- ②個別レベル地域ケア会議で話し合った課題について、更に解決に向けたケアプラザレベル地域ケア会議を開催し、課題解決に向け地域と医療・福祉とのネットワークを構築しました。
- ③ケアマネジャーを中心とし、個別ケース事例を多職種で検討し、問題解決につなげました（全16回）。
- ④認知症事例について、医師が中心となり、地域住民他多職種間で意見交換を行う「多職種ミーティング」を開催しました。今年度は「ひとり暮らしの認知症の方」について検討しました。
- ⑤シニアクラブ、ふれあい会、民生委員児童委員協議会等に出前講座を行い、関係性が向上しました。

5 介護予防事業

介護予防事業

- ①相談や訪問で、個別的・集団的に介護予防の必要性を伝え、介護予防の意識が浸透し活動が地域全体に広がることを目指し支援しました。
- ②委託事業OB会「にこにこ会」、立ち上げ支援をした「藤棚ハイツ体操クラブ」、ボランティアグループ「キラキラ会」の後方支援を通じ、高齢者の機能維持とともに、人材育成を行い活動の場を広げていきました。
- ③既存の体操教室などの地域活動を見直し、再活性を図り、活動のない地域に働きかけ、自立活動を促しました。
- ④活動団体の交流会を行うなどネットワーク化を図りました。

6 生活支援体制整備事業

ニーズ・資源の把握・分析、資源情報リストの作成

- ①5 職種で協働しながら、地域のアセスメント【例：圏域別の高齢者数、要支援・要介護者数の把握、要支援者のサービス状況の把握、要支援者をよこはまっぴ「地図情報システム」にマッピング】を行い、地域の状況や資源の把握に努めました。
- ②5 職種で連携しながら、地域資源の把握に努め、「インフォーマルサービス実施団体に関する調査」等地域の情報収集および情報共有を行いました。
- ③把握した情報等を基に、現在も資源情報リストを作成中です。
- ④シニアクラブ会員を対象とした「日常生活に関するアンケート」調査を行い、高齢者のニーズや、現在の困りごとなどを把握することができました。

圏域レベルの協議体の設置・開催

- ①自治会・町内会長をはじめ、民生委員児童委員協議会、第三地区社会福祉協議会、シニアクラブ会長、地区懇談会メンバー、地域住民、その他区役所、区社会福祉協議会等関係機関など、多様な主体が集まり、12月に2回、2月に1回協議体を開催し、地域の課題や今後の展望等について意見交換を行いました。
- ③「協議体の設置・開催の手引き」に従い、区役所、区社会福祉協議会、5職種の支援・協力のもと、圏域レベルの協議体を年3回開催しました。

圏域レベルの目標・取組事項の設定

- ①5 職種で協働しながら、圏域での個別課題や地域課題、地域資源など把握できている情報等について、ケアプラザ版生活支援体制整備推進会議等で、区役所、区社会福祉協議会等と情報の共有および提供を行いました。
- ②地域ケア会議にも積極的に参加し、個別・ケアプラザ・区レベルの課題を把握し、区役所、区社会福祉協議会、区内4地域ケアプラザがタイムリーに情報共有できるよう連携しました。
- ③協議体や地域ケア会議等で課題について協議・検討し、圏域レベルの目標やそれに伴う取組事項について決めました。

具体的な取組事項への着手

- ①区役所、区社会福祉協議会、5 職種の支援・協力を基に協議体を開催し、圏域レベルで現在行っている活動取組や課題などについて、情報交換および意見交換を行うことができました。
- ②進捗状況については、区版生活支援体制整備推進会議や生活支援コーディネーター連絡会で情報共有し、他の圏域の情報も得ながら、当該圏域にも活かすことができました。
- ③3月には、ケアマネジャーを対象に「生活支援体制整備事業」について、区内4地域ケアプラザの第2層生活支援コーディネーターと区社会福祉協議会の第1層生活支援コーディネーターと共に、グループワークを含めた勉強会が行えるよう提案し実施しました。「専門職から見た地域の資源」や、「これから必要になるであろう生活支援等」について意見交換し、生活支援コーディネーターとケアマネジャーとの顔の見える関係を構築しました。

7 その他

- ①地域の方の生きがいづくりを推進するため、趣味等で制作した作品を展示する場として「藤棚ぷらっとギャラリー」を地域活動交流部門と地域包括支援センターとの共催で年間を通して開催しました（出品者数：4名）。

平成28年度 地域ケアプラザ収支報告書

施設名: 横浜市藤棚地域ケアプラザ

平成28年4月1日～平成29年3月31日
(単位: 千円)

	科目	地域活動交流	地域包括支援センター			居宅介護支援	通所介護	予防通所介護 ・ 第1号通所介護	生活支援体制 整備事業
			包括的支援	介護予防事業	介護予防支援				
収入	指定管理料等収入	16,856	22,899	151					5,338
	介護保険収入				4,868	22,446	91,951	6,437	
	その他								
	介護予防ケアマネジメント費				2,971				
	認定調査料					311			
	雑収入						202		
	収入合計(A)	16,856	22,899	151	7,839	22,757	92,153	6,437	5,338
支出	人件費	13,365	20,653		1,479	19,118		70,730	7,055
	事務費	1,293	1,025		4,588	1,017		6,668	
	事業費	459	472	170				8,874	119
	管理費	4,018	1,068					7,230	
	その他								
	施設使用料相当額								
	拠点区分間繰入金					2,622		1,924	
	支出合計(B)	19,135	23,218	170	6,067	22,757	95,426		7,174
	収支 (A) - (B)	-2,279	-319	-19	1,772	0	3,164		-1,836

※ 介護予防プランを他事業者へ委託する場合の取扱は、介護報酬を一旦全額収入に計上した後、他事業者へ委託料として支払う分を支出に計上してください。

※ 上記以外の事業(認知症対応型通所介護等の事業)を実施している場合は、事業ごとに列を増やして同様に記載をしてください。

※ 指定管理料提案額をベースに作成してください。

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
オープンカフェ 「とんぼ」	障がい児（中学生以上）・者余暇支援事業 学校帰りや作業所の帰りにほっと一息できる場所として、 おやつづくりやティータイムを楽しみました。	毎月第2・4 火曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
情報アドバイザー 「eネットにし 探検隊」	誰でも必要な情報を入手・発信できるようになることを目的に、ボランティアの方がパソコン操作を解りやすく丁寧に教えて下さいました。	毎週水曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
山のうえサロン	介護予防、外出支援が目的。山のうえの町内会館に出向き、ケアプラザに来られない高齢者に情報提供・情報交換を行いました。体操と、脳トレを中心にして、お茶とおしゃべりを楽しみました。	毎月第2木曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
みんなで唄おう	高齢者の外出支援です。大きな声で唄って健康づくりをしました。	毎月第2土曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
さわやか体操 クラブ	転倒骨折・閉じこもり予防のお手伝いをしました。仲間づくりができる体操教室です。	毎月第2・4 日曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ピーナッツ クラブ	親子支援。毎月違う内容の行事を行い、家族同士の関係づくりをお手伝いしました。	毎月第3木曜日 (8月は、変動あり)

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
作味会	男性料理教室です。居場所づくりと仲間づくりの場となりました。	毎月第2木曜日

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
一の会	心を静め書に向かう書道教室です。仲間づくりのお手伝いを行いました。	毎月第4月曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
絵の会	障がいのある方と地域の方が自由に絵を描く場となりました。	毎月第4木曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
みんなで体操	浜松町公園周辺の住民を対象に体操を行い、顔の見える関係づくりを行いました。	毎週土曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
在宅男性介護者の集い	区内の男性介護者の方が集まり、悩みや・介護について話し合いました。	年4回

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
藤棚まつり	地域の方に地区センターとケアプラザを知ってもらえる様に、藤棚地区センターと合同で毎年お祭りを行いました。	6月第1日曜日

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
第3地区ふれあい春まつり	地域支援。事務局として運営全般に参加しました。また、健康チェックコーナーを受け持ちました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
藤棚コンサート	高齢者の外出支援。ボランティアのコーラスグループと一緒に音楽を楽しみました。	年2回

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
障がい児 余暇支援活動	西区自立支援協議会と一緒に、夏期・冬期休みに学校や家族以外の方と過ごしてもらえる様に開催しました。	年2回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
焼いも大会	障がい児者・地域支援。とんぼの利用者とボランティアを中心に町内会と一緒に焼き芋大会を行いました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
第3地区 福祉フェスタ	地域の方に福祉施設の理解をしてもらおうと共に、施設間の連携を図りました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
貸室懇談会	貸室登録団体の方に貸室の使い方の説明を行いました。また、団体同士の関係づくりに努めました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
藤棚交流会 (ボランティア 感謝会)	ボランティア・講師に日頃の活動に感謝し労いました。また、交流を行い活動の場に活かさせていただきました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
にこにこ会	<ul style="list-style-type: none"> ・地域高齢者の外出場所となります。 ・介護予防啓発事業として、体操・うた・朗読・計算ドリルなどおこない、心身共に活性化を図り、高齢による機能低下を防ぎました。 	毎月第1・3火曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
藤棚ハイッ 体操クラブ	<ul style="list-style-type: none"> ・藤棚地域ケアプラザを含む、藤棚二丁目自治会の高齢者の活性化を図りました。 ・体操教室で健康増進を図るとともに、世話係やチームリーダーを任せることにより、個人の役割をもてることができ、生きがいのある生活を送ることができました。 	毎週金曜日

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
キラキラ会	ケアプラザで行う事業の運営補助などを通じ、高齢者でも役割りをもっていただき、いきがいつくりの場になりました。	・月1回定例会 ・他随時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
チューリップ体操 I N地区センター	健康づくりを目的に、地区センターのラジオ体操時に出向き、チューリップ体操を行いました。	毎週月・金曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
赤い靴	高齢者支援。ボランティアグループ支援。月1回高齢者向けのミニデイサービスと夕食の配食を行いました。	毎月第4土曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
藤棚茶房	高齢者支援。ボランティアグループ支援。月1回高齢者むけのサロンを開催しました。	毎月第1金曜日

事業名	目的・内容	実施時期・回数
子育て支援ネットワーク会議	ケアプラザで登録している子育てグループや地域で開催されているサロン・支援者のネットワーク会議となりました。	年1回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
認知症サポーター養成講座	エリア内の商店街や町内会で「認知症サポーター養成講座」を行い、認知症の正しい理解の促進に努めました。	年4回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
シルバーサロン「ほのぼの」	地域の方に福祉に関わる社会資源を知ってもらいました。	年4回

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
出前講座	常に「最新の消費者被害」や、「成年後見制度」等について、各町内会の会合や民生委員児童委員協議会の勉強会、西区在宅介護者のつどい「あけぼの会」（西区内の介護者支援団体）やミニデイサービス「赤い靴」でのワンポイント出前講座、認知症サポーター養成講座等で、寸劇などさまざまな方法を取り入れて、誰にでも分かりやすく周知していきました。また、「遺言の書き方講座」を開催し、地域住民等への啓発活動を継続していきました。	随時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
藤棚ぷらっとギャラリー	地域の方の趣味等で作成しているオリジナル作品を展示し、地域の方に見ていただくことで心を豊かにし、地域の活性化を図りました。また、出展者を公募し、地域で作品を作成している方の発表の場を作りました。	随時

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域版広報「ふじだな夢だより」	情報発信を行いました。	年6回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
西区社会福祉士共催事業	権利擁護・ダブルケア・虐待等について、地域住民を対象とした研修及び普及啓発を行いました。	年3回

事業名	目的・内容	実施時期・回数
ケアぷらっと歩こう1万歩	西区のケアプラザ4館と主要な施設を巡るウォークラリーをしました。	随時

事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ケアマネサロン	ケアマネジャー同士の連携支援及びスキルアップを目標に西区4包括共催で「ケアマネサロン」を開催しました。	年9回

平成28年度 自主事業報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	目的・内容	実施時期・回数
地域ケア会議	地域の医療機関・福祉関係者・行政等の方たちと地域における課題について話し合い、お互いのできる部分を確認していきました。	年5回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
ケアマネぶらっと	西区エリアで活動をしているケアマネジャーを対象に、交流会や勉強会を行いスキルアップを図りました。また居宅介護支援事業所の主任ケアマネジャーの支援を行いました。	年2回
事業名	目的・内容	実施時期・回数
大人への読み語り講座	ケアプラザを利用する方に絵本の読み語りや紙芝居などを行うボランティアを養成しました。	年1回
事業名	目的・内容等	実施時期・回数
水道教室	地域の高齢者に水道・防災及び水をめぐる詐欺の話を知っていただきました。	年1回

平成28年度 自主事業収支報告書

横浜市藤棚地域ケアプラザ

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
障がい児・者余暇支援 「オープンカフェとんぼ」	障がい児・者	62,603	34,203	28,400			62,603
	5人						
	100円						
情報アドバイザー 「eネットにし探検隊」	地域住民	7,754	7,754	0	0	7,754	0
	4人						
	無料						
山のうえサロン	地域住民	36,251	31,851	4,400			36,251
	10名						
	100円						
みんなで唄おう	地域住民	61,004	16,104	44,900			61,004
	40人						
	100円						
さわやか体操クラブ	地域住民	106,000	71,900	34,100	98,000	0	8,000
	25名						
	100円						
ピーナッツクラブ	未就園児の親子	32,748	15,948	16,800			32,748
	15組						
	100円						
作味会	地域の男性 無料 1,000円	2,800	2,800	0	0	0	2,800
一の会	地域住民 12名 200円	49,399	19,799	29,600			49,399
絵の会	地域住民	6,720	6,720	0	0	6,720	0
	10名						
	無料						
みんなで体操	地域住民	378	378	0	0	0	378
	20人						
	無料						
在宅男性介護者の集い		2,856	2,856	0	0	2,856	0
	33						
	20人 無料						

事業ごとに事業別計画書単表に内容を記載してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
藤棚まつり	地域住民	167,551	147,501	20,050	0	0	167,551
	1,000人						
	実費						
第3地区ふれあい春まつり	地域住民	1,000	1,000	0	0	0	1,000
	1,000人						
	実費						
藤棚コンサート	地域住民	5,000	5,000	0	0	0	5,000
	50人						
	無料						
夏の余暇支援	障がい児	23,725	19,925	3,800	0	0	23,725
	12名						
	500円						
焼きいも大会	地域住民	32,800	24,800	8,000	0	30,000	2,800
	80人						
	100円						
第3地区福祉フェスタ	地域住民	4,960	4,960	0	0	0	4,960
	400人						
	実費						
冬の余暇支援	地域住民	8,117	8,117	0	0	0	8,117
	90名						
	無料						
貸室懇談会	貸室登録団体	6,650	6,650	0	0	6,650	0
	50人						
	無料						
藤棚交流会 (ボランティア感謝会)	ボランティア	23,014	23,014	0	0	23,014	0
	50人						
	無料						

事業ごとに事業別計画書単表に内容を記載してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自主事業予算額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
にこにこ会	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
藤棚ハイツ体操クラブ	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
キラキラ会	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
チューリップ体操IN地区センター	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
赤い靴	高齢者 40人 400円	0	0	0	0	0	0
藤棚茶房	高齢者 20人 200円	6,720	6,470	250	0	0	6,720
子育て支援ネットワーク会議	地域住民 無料	1,394	1,394	0	0	0	1,394
認知症サポーター養成講座	地域住民 無料	0	0	0	0	0	0
シルバーサロン「ほのぼの」	地域住民	0	0	0	0	0	0
	40人						
	無料						
出前講座	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
藤棚ぷらっとギャラリー	地域住民	0	0	0	0	0	0
	3人						
	無料						

事業ごとに事業別計画書単表に内容を記載してください。

平成28年度 自主事業収支報告書

事業名	①募集対象	自 主 事 業 予 算 額					
	②募集人数	総経費	収入		支出		
	③一人当たり参加費		指定管理料	参加費	講師謝金	材料費	その他
地域版広報「ふじだな夢だより」	地域住民	10,710	10,710	0	0	10,710	0
	無料						
ふれあいクリスマスコンサート	地域住民	0	0	0	0	0	0
	500人						
	無料						
人生これから講座	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
ケアぶらっと歩こう 1万歩	地域住民	0	0	0	0	0	0
	無料						
サブコ事業 「クリスマスキャンドルを作ろう」	地域住民 20人 500円	12,289	2,789	9,500	0	10,827	1,462

事業ごとに事業別計画書単表に内容を記載してください。